

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 (医 学)	氏名	渡谷 祐介
学位授与の要件	学位規則第 4 条第①・2 項該当		
<p>論 文 題 目</p> <p>Sacrocolpopexy with rectopexy for pelvic floor prolapse improves bowel function and quality of life</p> <p>(複合骨盤臓器脱に対する仙骨膣固定術と直腸固定術の併用は、術後排便機能と生活の質を改善させる)</p>			
<p>論文審査担当者</p> <p>主 査 教授 松原 昭郎 印</p> <p>審査委員 教授 工藤 美樹</p> <p>審査委員 講師 檜井 孝夫</p>			
<p>[論文審査の要旨]</p> <p>骨盤臓器脱は出産や手術、骨盤神経障害等を契機に骨盤底のサポート機能が失われるために発症し、経産婦では約半数に骨盤臓器脱を発症するとされる。直腸脱に対する手術術式は多数あるが、いずれも術後再発を 10-20%に認め、また直腸脱に限定した修復のみでは他の臓器脱やそれに伴う症状を増悪させることがある。近年、泌尿器科、婦人科医と連携し、骨盤腔内全体を評価し、同時に治療を行う重要性が提唱されている。</p> <p>そこで本論文では、ミネソタ大学大腸外科および関連病院で施行された骨盤複合臓器脱症例に対する仙骨膣固定術と直腸固定術の併用手術の手術成績を検討し、質問票を用いて術前後の排便機能の変化を評価した。</p> <p>2004 年 4 月から 2011 年 10 月までに、仙骨膣固定術と直腸固定術の併用手術を施行された全 110 例(全例女性)を対象とした。術前に泌尿器婦人科医および消化器外科医の診察、骨盤生理機能検査、排便造影による画像検査を施行し、骨盤中区画の子宮膣脱および小腸瘤、後区画の直腸脱、或いは直腸重積の複合臓器脱と診断した。また術前に排便機能の評価するため 4 種の質問票に回答を依頼した。質問票は、便秘の重症度を評価する Patient Assessment of Constipation Symptom Questionnaire (PAC-SYM)、便失禁の重症度を評価する Fecal Incontinence Severity Index (FISI)、便秘に関する生活の質を評価する</p>			

Patient Assessment of Constipation Quality of Life (PAQ-QOL), 便失禁に関する生活の質を評価する American Society of Colon and Rectal Surgery Fecal Incontinence Quality of Life Questionnaire (FIQOL)を用いた。

診療録より手術の詳細, 術後経過, 入院期間および再入院の有無を調査した。また 2012 年春に上述の質問票および術後再発の有無, 手術満足度に関する質問を各症例に郵送し, 回答を依頼した。

110 例の手術時年齢は中央値 55 歳 (28 - 88 歳) で, 直腸脱と小腸瘤の合併例が最も多かった (75 例, 68%)。5 例 (4.5%) に術中合併症を認め, 内訳は輸血を要した仙骨前面出血 2 例, 尿管損傷 2 例, 直腸損傷 1 例であった。術後入院期間は中央値 4 日 (2 - 25 日) で, 合併症のため 7 例が術後 30 日以内の再入院を要した。術後外来経過観察中に再発を認めなかった。

郵送した質問票には 53 例 (48%) より回答あり, 術後経過期間は中央値 29 ヶ月 (4 - 90 ヶ月) であった。

便秘重症度評価: 53 例の内 30 例が術前にも PAC-SYM に回答していた。PAC-SYM の各項目とも術後有意差を持って改善し ($P < 0.01$), 術後 23 例 (82%) が改善あるいは便秘症状が消失し, 5 例 (18%) が変化なし, あるいは症状の増悪を認めた。

便失禁重症度評価: 53 例の内, 27 例が術前にも FISI に回答していた。FISI スコアは術後著明に減少し (39 から 24 ; $P < 0.01$), 22 例 (82%) で便失禁症状が改善あるいは消失した。

再発と手術満足度: 郵送での質問票に回答した 53 例全例で術後再発を認めなかった。手術満足度に回答した 51 例のうち, 36 例 (70.6%) が手術の結果に満足していると回答した。

以上の結果から, 本論文は骨盤中後区画の複合臓器脱例に対する仙骨腔固定術と直腸固定術の併用手術の有用性を示し, 骨盤機能障害の臨床研究として価値の高いものである。よって審査委員会委員全員は, 本論文が著者に博士 (医学) の学位を授与するに十分な価値あるものと認めた。